（別紙）

学長業績評価　自己評価書

所信表明に掲げた項目への取り組み実績等を記載してください。

No.	項目	自己評価
1	教育	奈良医大の人材育成について、入学から卒後までの一貫した体制の整備を行いました。 1. 優秀で多様な人材を得る： 推薦、前期、後期の3つの入試を行い優秀で多様な人材を確保しています。さらに前期入学試験の改革を行い、来年度から大学入学共通テストと論文を主体にした方法に変更します。 2. 学生のレベルを在学中に一層上昇させる： 学生の平均レベルを上げるだけでなく、突出した医師、看護師の育成を考えた教育を行っています。国内外にリサーチクラークシップの学生を派遣しています。Cell誌など有力医学誌に派遣学生の論文が掲載されるなど大きな成果が上がっています。 3. アントレプレナーシップの醸成： 単に医学、看護学を修めるだけでなく、進取の精神を学んでいただきたいと思い、ダイソー創業者、パナソニック前会長など5名の異分野の方々にMBT特命教授を委嘱し、学生対象の講義を行っていただいています。 4. 優秀な医師、看護師が奈良県に軸足を置きながら世界で活躍する： 高いマッチング率を維持し、奈良県に多くの優秀な医師が残って活躍していただいています。 5. 医療人育成機構： 奈良医大は卒業後も卒業生の教育に熱心に取り組む体制を整えています。 6. その他の成果： 模擬国連世界大会に医学部から唯一参加し、2つの賞を受賞しました。
2	研究	1. 科研費獲得支援、若手・女性・医療スタッフの研究支援： URAによる科研費獲得相談、若手研究者国際学会発表支援、女性研究者研究支援などの成果が、PubMed 対象の英文学術論文数（2019年は651編、2022年は873編）や科研費獲得件数（2019年は225件、2022年は256件）に表れてきました。 2. 奈良先端科学技術大学院大学との連携進展： 共同研究組織「連携活性化推進室」を設置し、連携の活性化を図りました。 3. 研究者の起業支援： 研究成果を社会に還元するため、奈良医大発ベンチャーの起業を奨励した結果、起業数が6社と公立単科医科大学中最多となりました。 4. 先端医学研究支援機構の機能を強化： URAによる新たな取り組みの実施やテクニシャンの増員を行いました。 5. 総合研究棟グランドデザイン策定委員会の設置： 外部委員2名を含めた委員により、将来のあるべき総合研究棟のデザインを策定すべく、グランドデザイン策定委員会を設置しました。

2	研究	6. 奈良県内国公立高等教育・研究機関の連携： 9機関において、教育・研究活動、産学官連携、社会貢献活動等、広く連携を図るための協定を締結しました。 7. 奈良県の競争的研究費獲得： 森精機、奈良精工と研究チームを結成し、総額1.5億円の研究費を獲得しました。通常手術、内視鏡手術に次ぐ超音波ガイド下手術を確立し、奈良から世界に普及させることが目標です。
3	診療	1. 奈良医大の診療を全国的にアピールする方策： ①奈良医大（治療手技等）パイオニア称号付与制度の創設を行いました。奈良医大発の治療手技の開発又は継承に功績があった医師に対し付与することとし、1名に付与しました。 ②外科マスターについては、新たに2名の医師が加わり、合計9名となりました。 2. マッチング率の向上をめざして： 臨床研修センターの充実（当直室の個室化、Wi-Fi環境の整備等）を行いました。医学科5、6年生ならびに保護者に対し、学長面談を実施しました。 3. 臨床系講座の再編・新設： ①血液内科学講座を呼吸器内科学講座から独立、設置しました。 ②附属病院に設置されていた感染症センターを、感染症内科学講座に再編しました。 4. 在宅医療支援センターの設置：在宅医療体制を支援するために設立しました。 5. がんゲノム医療拠点病院に指定：附属病院が奈良県で初めて指定されました。 6. 高度生殖医療センターの開設： 一般の病院では対応が困難ながん患者に対する妊孕性温存などの不妊に対する高度な医療を提供することを目的として設置を決定しました。 7. 働き方改革への対応： 医師労働時間短縮計画を策定し、近畿厚生局へ提出しました。特定労務管理対象機関指定申請のための準備を行いました。 8. 医療費適正化への貢献： 後発医薬品の使用割合について、県医療適正化計画・中期目標を達成しました。
4	総合	MBT構想の進展：奈良医大MBT研究所とMBT コンソーシアムが以下の共同事業を行いました。 1. 医科の単科大学に全業種から約200社が全国から集まる世界に例がない組織に成長しました。 2. コロナ克服キャンペーン： 新型コロナ不活化評価は、奈良医大発ベンチャー企業「MBT 微生物学研究所（株）」へ、コロナ感染対策相談は「MBT 感染対策支援コンサルティング（株）」へ活動をシフトしました。MBT会員企業と共同開発した銅合金マスクは、高いオミクロン株不活化効果が奈良医大で証明され、橋本聖子オリンピック・パラリンピック組織委員会会長はじめ多くの著名人が使用していることがテレビ等で報道されました。 3. 難病克服キャンペーン： 6団体から後援名義使用許可を得ました。協賛企業は37社となりました。映画祭を、2023年1月に東京有楽町で野田聖子議員の支援を得て開催し（NHKテレビで全国放

4	総合	送）、2024年1月には東京大手町で吉永小百合氏の支援を得て開催することを計画しました。WEBセミナー第3回（2022年9月）、第4回（2023年3月）を行いました。 4. 経団連地域協創アクションプログラムへの参加： 経団連のプログラム10項目のうちの1つ「健やかで快適な暮らしの基盤を協創する」を経団連と共同で行っています。 5. 「よい仕事おこしフェア実行委員会」（城南信用金庫など）ならびに「高齢者活躍推進のための協力宣言」（時事通信社、明治安田生命など）と連携協定を締結し、社会貢献の協力体制を整えました。 6. MBT研究所が参加した北海道の「更別村スーパービレッジ構想」が「令和3年度補正予算デジタル田園都市国家構想推進交付金」の最上位のType3に採択されました。 7. MBT 活動が2023年4月14日NHKテレビ「関西熱視線」や5月16日「おはよう関西」などで紹介されました。
5	その他（法人運営または学長選考基準に示された資質の発揮度等について）	1. 未来への飛躍基金： 基金創設後総額約11.2億円（2023年3月末現在）の寄附を獲得しました。多額の寄付により、紺綬褒章を授与された方が5名となりました。新たに若手研究者への英語論文校正費用の助成制度を創設しました。 2. 積極的な情報発信、広報の充実： 積極的にマスコミに働きかけることにした結果、大学全体の期間中の報道の件数は、158件となりました。 3. 学内広報の活性化： 理事長・学長からの一斉メール、学報における理事長・学長からのメッセージ、奈良医大キャンパスだより、MBT ニュースレター、MBTジャーナルなどを通じて、学内の広報に努めました。 4. 障害者雇用の推進： 障害者雇用に関するコンサルテーション等を行う「MBTジョブレオーネ」を大学発ベンチャーに認定しました。奈良医大障害者雇用10周年記念フォーラムを開催しました。 5. キャンパス整備： 新キャンパスについては、2024年度中の竣工を目指して建設中です。新駅を含む附属病院南側地区のまちづくりに関する連携協定を奈良県、橿原市、近畿日本鉄道と本学の4者で締結しました。
6	総合評価	本学の運営について、奈良県の評価委員会（委員長・垣内喜代三・奈良先端大副学長）から概ね高い評価をいただきました。 奈良医大を存在感のある特別な医科大学にすることに努力してまいりました。橿原にあって全国的に知名度が高く、医師も研究者も学生も患者も奈良医大に集まるそのような大学にしたいと考えてきました。一歩ずつ目標に近づいていると感じています。しかし、なお道半ばです。将来に向かってのなお一層発展するために、「橿原スポーツ・学術研究都市構想」を提唱し、新病棟の効率的な運用を考え、橿原市に建物の高さ制限の緩和をお願いしています。施設面に加えて、奈良医大から世界をリードする人材が輩出されるような施策も続けていきたいと考えています。

令和5年9月1日

奈良県立医科大学　学長　細井裕司　印